

令和6年度 授業改善推進プラン 算数科

① 「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の分析も含む）

※1、2、3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

1年	【知識・技能】	10までの数のたし算やひき算の暗記ができておらず、簡単な計算でも、指やブロックを使わないと計算できない児童がいる。
	【思考・判断・表現】	文章題において、何が分かっている、何を求めればよいのかを読み取れず、正しく立式できない児童がいる。
	【主体的に学習に取り組む態度】	積極的に学習に取り組む児童が多い。一方、難しい課題に対して、はじめから「できない」と諦めてしまう児童がいる。
2年	【知識・技能】	時刻と時間の区別、体積の普遍単位（dL,L,mL）の理解が定着していない。
	【思考・判断・表現】	文章題を読み取り、演算決定をする力が弱い。特に「長さ」「かさ」の普遍単位の計算では、場面を読み取るのが難しくなる。
	【主体的に学習に取り組む態度】	積極的に学習に取り組む児童が多い。一方、学んだことを日常生活で生かそうとする児童は少ない。
3年	【知識・技能】	時刻と時間についての理解が不十分で、特に「何分前」「何分後」の計算を正しく行えない児童がいる。大きな数では、位取りの仕組みや数の構成への理解が不十分である。
	【思考・判断・表現】	たし算、ひき算の筆算について、計算技能としては定着しているが、仕組みを正しく理解しておらず、計算の仕方を説明できない児童が見られる。また、文章題の題意を読み取ることに時間がかかる。
	【主体的に学習に取り組む態度】	興味をもって学習に取り組む児童が多い。一方、学んだことを日常生活で活用できない児童がいる。
4年	【知識・技能】	教科全体の正答率では、区の目標値を4.8ポイント上回っており、「知識・技能」では目標値を5.5ポイント上回っている。どの問題もおおむね目標値を上回っているが、「分数」の問題の基礎問題（分子が1の分数が何個で1となるか）が、5ポイント下回っている。
	【思考・判断・表現】	目標値を2.4ポイント上回っている。本観点の内容の中では「あまりのある除法の余りを正しく処理する問題が、目標値を11ポイントと大きく下回っているため、文章をよく読んで、問題の意図通りに答えを導き出す力に課題がある。
	【主体的に学習に取り組む態度】	目標値を6.2ポイント上回っている。本観点の内容の中の「長さ・重さ」の問題（身近にあるものの重さの単位を考える）と記述で答える問題が多少下回っていた。
5年	【知識・技能】	教科全体の正答率では、目標値を8.6ポイント下回っており、特に60%未満の児童が全体の5割以上いる。「知識・技能」では、目標値を9.2ポイント下回っている。特に「わり算」「小数×整数」「小数÷整数」に課題があり、四則演算の計算の習熟が必要である。
	【思考・判断・表現】	目標値を10.8ポイント下回っている。本観点の中では、特に「変わり方調べ」の問題の正答率が大きく下回っていた。
	【主体的に学習に取り組む態度】	選択式、記述式にかかわらず、無回答の問題も多く、算数に対して苦手意識のある児童が多いことが課題である。
6年	【知識・技能】	観点全体では、目標値を4.9ポイント、区の正答率を3.0ポイント上回った。「比例・単量あたりの大きさ」は目標値、全国平均ともに大きく上回っている。一方で小数を分数にする問題や、比較量と割合から基準量を求める問題に課題がある。
	【思考・判断・表現】	円グラフ・帯グラフを読み取る問題や小数の文章題を図で表す問題での正答率が高い。一方、根拠をもって説明するような、記述式の問題で正答できない児童が多い。
	【主体的に学習に取り組む態度】	多くの領域で、目標値より高い正答率を示した。整数÷小数の計算をもとに小数÷小数の計算の答えを求める問題では19.3ポイント上回った。一方で、記述問題に課題があり、無回答が2割近くいた。情報を整理し、正確に考察したり、わけを説明したりする力の育成が課題である。

②授業改善策

- 1 年
- ・計算カードや学習プリントを活用して、10になる組み合わせ及び計算練習の反復練習に取り組み定着を図る。
 - ・文章題では、「分かっていること」と「聞かれていること」に線を引いたり、キーワードに印を付けたりさせ、問題を正しく読み取らせる。また、図や半具体物に置き換えて考えることで、正しく立式できるようにする。
 - ・興味がもてるような教材を工夫し、具体物の操作をしたり体験的活動を取り入れたりする。
- 2 年
- ・ドリルやタブレットを活用して練習問題を繰り返し解かせ、既習内容の定着を図る。
 - ・身の回りにある事象を使って、時刻や時間を言い表したり、目的に応じた単位で長さや体積を的確に表現したりする機会を増やす。
 - ・図を用いて問題場面を表す練習を繰り返し、複雑な問題文や量の計算問題でも演算決定ができるようにする。
 - ・問題解決の過程や結果を具体物・図・式などを用いて表現し伝え合う活動を多く取り入れる。
- 3 年
- ・問題文を図に表して整理する練習を繰り返す。
 - ・計算の仕組みについて考え、図や言葉を使って説明する活動を多く取り入れる。
 - ・他教科や日常の生活場面で、時計や物差しを活用したり、かけ算やわり算などの既習事項を使ったりする場面を意図的積極的に取り入れる。
- 4 年
- ・習熟度の低い児童の苦手な分野を明確にして指導する。習熟度別少人数のクラス分けや課題設定において、十分な配慮を行えるようにする。基本的な四則計算、正答率が大きく目標を下回った単元については、宿題などで定期的に復習に取り組む。
 - ・図形の領域の学習や「□を使った式」の学習で習熟度が低い児童が見られたので、3年生の単元の振り返りに朝学習や家庭学習で取り組ませる。
 - ・問題解決学習の中で、話し合って解決する機会を増やし、難しいと感じる問題にも対応できる児童を育てる。
- 5 年
- ・授業開始時に5分間、既習の計算問題に継続的に取り組むことで、知識・技能の習得につなげる。
 - ・数直線や図、絵等を使って自力解決や集団討議を行うことを繰り返し、文章を読み取ったり式を立てたりする力を高めていく。
 - ・授業開始時や終了時にタブドリLiveに継続的に取り組むことで、自力解決できたという自信につなげ、自ら課題に取り組もうとする姿勢を高めていく。
- 6 年
- ・宿題などで、分数から小数への変換や約分といった基礎的な技能や、割合を求めたり、割合から基準量、比較量を求めたりする計算の反復練習を行う。
 - ・日々の授業で、図や数直線や表を使って考えをまとめ説明する活動を多く取り入れ、根拠をもって説明する力を育てる。
 - ・特に文章題に取り組むときに、聞かれていること、分かっていることを整理して、式や図等を使って考えを記述する活動を積み重ねる。